

平成28年度の重点施策

1. 生活と暮らし

- ① 遊休地等の有効活用の推進
- ② 国土調査事業の積極的な推進
- ③ 空家基本計画の作成
 - ※ 空家バンク制度の導入

2. 福祉と医療

- ① サテライト事業の推進
 - ※ 高齢者へのきめ細かな支援体制
- ② 子ども医療費助成制度の拡充
 - ※ 今年10月から中学3年生まで拡充
- ③ 子育て世代包括支援センターの設置
- ④ 産後ケア事業の実施
- ⑤ 在宅医療・介護連携の推進及び認知症施策の推進
- ⑥ 公立保育所の民営化
- ⑦ 待機児童の解消

3. 地域の活性化

- ① 地方創生推進と効果・定住施策の検証
 - ② ふるさと納税制度の強化推進
 - ③ 雇用・定住促進機能の強化
4. 農業
- ① 地域による営農活動の支援
 - ② 担い手への農地集積の推進
 - ③ 土地基盤整備事業の推進

5. 教育

- ① 文教施設の整備
 - ▶ 図書館・歴史資料館の開館準備
 - ▶ 城山横穴群整備事業
 - ▶ 学校施設整備事業
 - ※ 小中一貫連携教育に向けた取り組み

6. その他

- ① 行財政改革の推進
 - ※ 公共施設の統合・民営化の推進

税務課
賦課係

清水 絵理 ▶▶

●主な担当業務
町県民税、法人税、入湯税などの町税賦課業務



保健課
隣保館係

白石 友明 ▶▶

●主な担当業務
人権教育・啓発、地域活動の支援



まちづくり
総合政策課
政策推進係

太田 詠子 ▶▶

●主な担当業務
観光振興、ふるさと納税、PR出展、公平委員会



総務課
消防防災係

松永 健吾 ▶▶

●主な担当業務
消防、防災、防犯、空家対策



生涯学習課
公民館係

植田 圭美 ▶▶

●主な担当業務
高齢者大学、公民館管理、図書室業務



嶋野勝町長が本年度の施政方針を3月定例議会で表しました

11年目のまちづくり

福智町誕生から10年が経ち、直面する課題の解決、将来への強固な基盤づくりとともに、まちづくりのさらなる加速が求められています。「次代に誇れる町」そして「誰もが夢を描ける町」の実現に向けて嶋野町長が示した福智ならではのカラーをご紹介します。

存在感のある町へ

昨年、町の「人口ビジョン」と「総合戦略」を策定しましたが、今後は日本の先駆的なプロジェクトをはじめ、町の特色と魅力を表しながら、まちづくりを進めていかなければなりません。その際に、地域の価値観や自らの尺度をもって、町が持つ潜在力を最大限に引き出すことが重要だと考えています。

人口減少で自治体が消滅することはありません。危惧すべきは、自らの町を卑下する「あきらめ感」が日常的になること。この「何をしても同じ」という閉塞感こそが、真の自治体消滅を生むのではないだろうか。自治体消滅を避けるためにも、胸を張って「わが町」と言える誇りが必要です。福智町で生きる人々が、次の世代により良い郷土を残したいと思える風土を、地域ブランド化をはじめ、あらゆる施策で醸成したいと考えています。町に対する誇りと愛着が根底にあれば、産・学・官・民の取り組みが相乗効果を発揮するはずです。地方交付税の削減等で、国は、やる気と能力のある自治体を重点的に支援する方針へ、

移行してきます。福智町が生き残っていくには、自主財源が3割程度の限られた予算の中で、政策の選択・集中を行い、将来への布石も打たなければなりません。皆様のご理解を得ながら、最善の選択を見出し、行財政改革を進めていきたいと考えています。

昨年、福智町は町有地の売却や県内初の太陽光発電「水上フットソーラー」を実現。11億円を超える5万件以上の寄附を集めた「ふるさと納税」など、「稼ぐ力」を発揮する町としても始動しています。

特に、来年開館予定の「図書館・歴史資料館」は、全国に誇れる先駆的多機能型施設として、精力的に運営基盤を構築していきます。また、福祉・医療・介護が連携した少子高齢化対策も充実させ、ハローワークと連携した「しごと相談窓口」を強化するなど、地域ブランド化の深化や今後の効果的な定住促進施策の検証も含めて、地方創生を推進します。そして、将来を左右する「教育」についても、その質の向上と、自立して生きていける力と豊かな感性を培う人づくりを力を注いでまいります。

4 空家対策

近年、全国的な問題となっている空家対策。福智町では協議会を設置して専門家の意見をとり入れ、実態に即した空家対策計画の策定を行います。生活環境に悪影響を及ぼす危険家屋についても適正な管理に取り組みます。また、定住促進のため、空家バンク制度を導入する予定です。

5 地方創生

国が総力を挙げて取り組む町地方創生。福智町としても町の

の将来を向け、全力で取り組んでいます。昨年は5年にわたる「福智町まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「福智町人口ビジョン」を策定し、全国における先駆的事業として、福智町の事業が国から採択されるなど、先行型事業を中心に地方創生を進めました。本年度は「雇用・定住促進」「地域ブランド化」、そして平成26年度の580倍の寄附を集めて貴重な財源となった「ふるさと納税」等の施策をさらに加速させ、急速に進む人口減少に歯止めをかける取り組みを展開していきます。

1 公有財産

遊休地については、少しずつですが売却し、確実に維持管理経費は軽減されています。本年度は旧平原団地跡地を売却予定です。さらに今後はインターネット等を利用して町外へも情報発信し、積極的な売却、企業への貸付等に努め、自主財源の確保に努めます。

2 国土調査

本年度は上野地区の一部、堀田地区0.45kmの現地調査に入る予定です。来年度以降も金田の未着手地区とあわせ、早急に事業完了を目指します。

3 防犯・防災

自主防災組織等と連携して防災訓練の実施を目指し、防災力の強化を図ります。また、災害時に避難が困難な人に対して、日頃からの見守りや災害時に速やかに支援できるよう、社会福祉協議会等と連携して取り組みます。避難経路や危険箇所の把握には、昨年度更新した「ハザードマップ」をご活用ください。皆様には、

福智町新人職員紹介

3月末で13人が退職し、本年度は11人の新戦力が加わりました。新しい職務に慣れないながらも、4月1日からそれぞれの部署で頑張っています。まちで見掛けたら、声をかけてあげてくださいね！